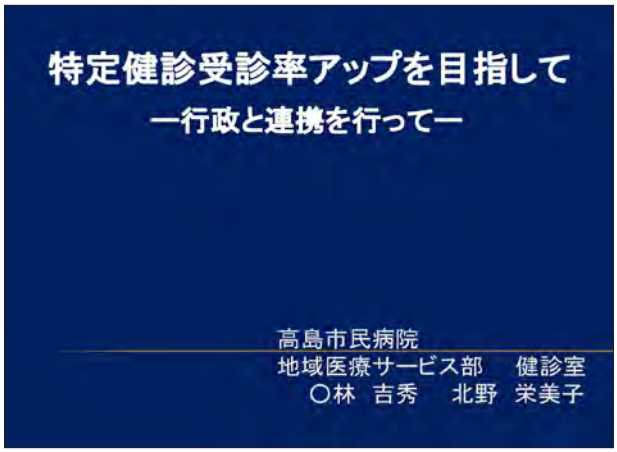
演題 52

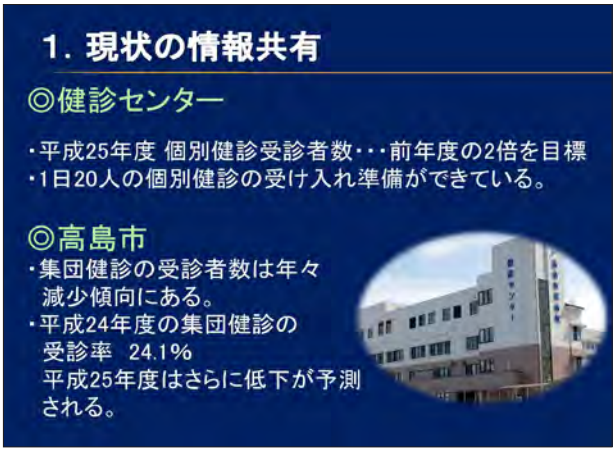
特定健診受診率アップを目指して
―行政と連携を行って―

発　表　者　林　吉秀（滋賀県　高島市民病院　地域医療サービス部健診室）
共同研究者　北野　栄美子



はじめに

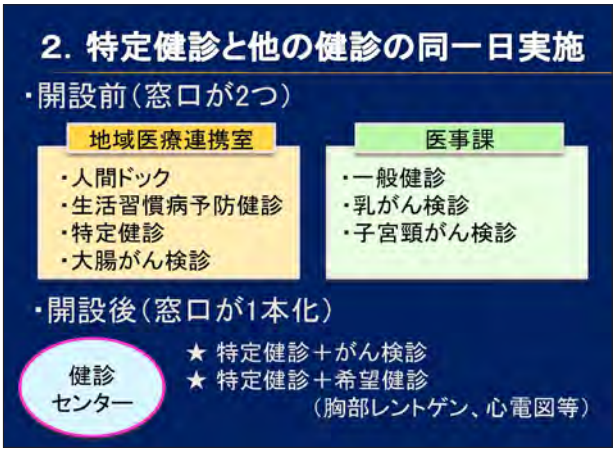
当院は琵琶湖の西部に位置し、平成24年に新病院の運用が開始となり、平成25年４月に健診センターが開設した。地域の中核病院として健診受診者数をいかに増やし予防医療の推進を図っていくかが大きな課題となっている。一方、自治体が実施している集団特定健診は、年々受診者が減少傾向にあり、個別健診を増やすことが受診率向上の大きな鍵となっている。そこで今回、健診センターと市の健康福祉部がタッグを組み、個別健診を増やすための取り組みを行ったので報告する。



Ⅰ　個別特定健診獲得の取り組み

1.現状の情報共有

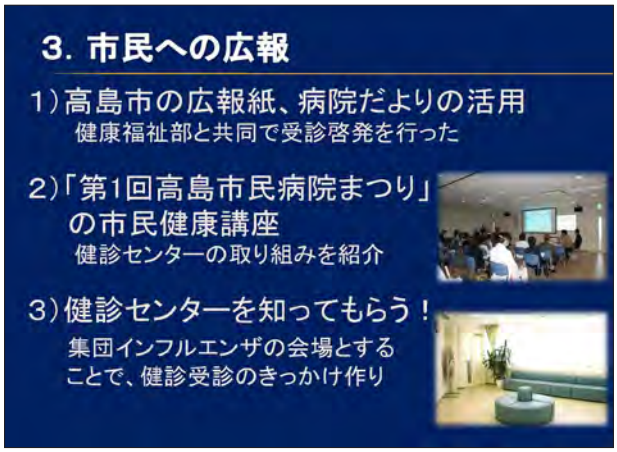
定期的に会議を開き、健診センターの受入状況および自治体の集団特定健診の現状について話し合った。健診センターでは、平成25年度個別健診受診者数を前年度の２倍にすることを目標に、１日20人の個別健診受け入れ準備を整えた。また自治体では、集団健診を毎年５月～７月に健診バスで集会所や保健センターを巡回し実施しているが受診者数は年々減少しており、平成24年度の集団健診の受診率は24.1％で平成25年度はさらに低下が予測されることが確認できた。



2.特定健診と他の健診の同一日実施

センター開設前は、受診者から「特定健診とがん検診や他の検査も一緒に受けたい」と要望があったが、健診内容により窓口が地域連携室と医事課に分かれていたため調整が困難であった。しかし、センター開設により窓口が１本化となったことで、他部

門と連携し特定健診とがん検診などが同一日に実施できるようになった。

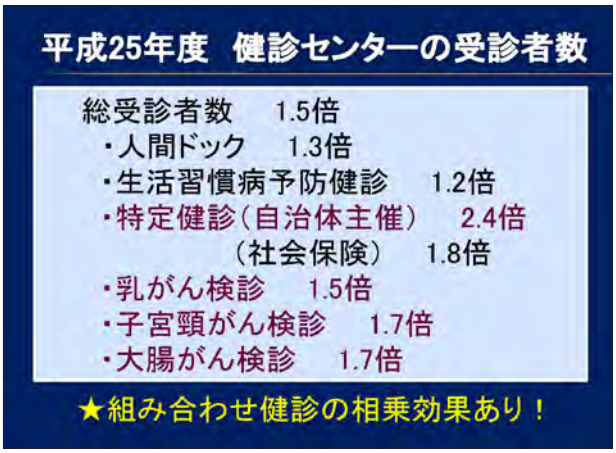


3.市民への広報

市民が健康意識を高め健診に関心が持てるよう、健診センターと健康福祉部が市の広報紙を利用して受診啓発を行った。また、病院が毎月発行している「病院だより」にも健診内容や組み合わせ健診などについて掲載した。昨年から始まった「病院まつり」では、市民講座で健診センターの取り組みを紹介し、健診センターを集団インフルエンザ予防接種の会場とすることで、健診受診のきっかけ作りとした。

4.未受診者への受診勧奨

健康福祉部は毎年、集団健診後の未受診者に対して、案内文を郵送し個別特定健診の受診勧奨を行っている。今回はその案内文に組み合わせ健診の内容も掲載した。

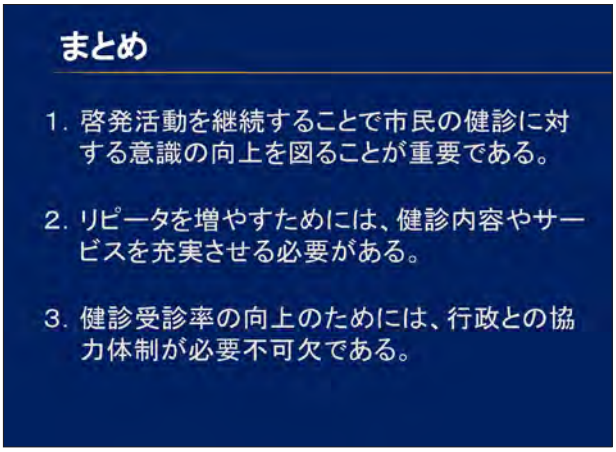


Ⅱ　結果及び考察

平成25年度健診センターの個別健診の受診者数は、前年度と比べ約2.4倍になった。市の集団健診においては、２％の減少が見られたが、個別健診は44％の増加がみられ、全体の受診率は平成24年度より上回る見込みとなった。

健診センターでは、診察時に血液検査の結果説明を行い生活習慣のアドバイスや受診奨励を行っている。結果が出るまでの待ち時間を利用して、がん検診などの実施ができるため、受診者にとっては待ち時間を有効に利用でき、健診が受けやすい環境が整えられたのではないかと考える。がん検診と組み合わせたことにより乳がん検診が1.5倍、子宮頸がん検診と大腸がん検診が1.7倍と相乗効果もみられた。

今年度は一部の集団健診を健診センターで受け入れたり、特定健診の受診券を利用して生活習慣病予防健診に準じたミニ健診を実施するなど新たな試みも始めた。今後もさらに行政との連携を深め、受診率の向上につなげて行きたい。



Ⅲ　まとめ

１．啓発活動を継続することで市民の健診に対する意識の向上を図ることが重要である。

２．リピーターを増やすためには、健診内容やサービスを充実させる必要がある。

3．健診受診率向上のためには、行政との協力体制が必要不可欠である。